

西洋事情

二編

四

西史編纂

西洋事情二編卷之四

福澤諭吉纂輯

佛蘭西

史記

千八百五年魯西亞、瑞典、英吉利ノ三國同盟シテ佛  
 蘭西皇帝「ナポレオン」ニ敵シ後奧地利、普魯士モ同  
 盟ニ與ミシテ皇帝ノ野心ヲ制セントシ奧地利帝  
 先ツ兵ヲ發シテ「バワリヤ」ニ入り佛ノ境ニ臨メリ  
 佛ハ前年ヨリ英ヲ攻メントシテ兵備既ニ整タ  
 レハ乃チ此兵ヲ發シテ奧地利ヲ伐チ直ニ其首府

西史編纂

西洋事情二編 卷之四

井シナニ迫テコレヲ降タシ次テ又奥地利ノ殘兵  
魯西亞ノ大軍ニ合シオウストルリツノ原ニ佛軍  
ヲ迎戦テ又敗績シ奥魯ノ二帝ハ辞ヲ卑シテ和ヲ  
乞ヒ佛蘭西ノ新帝ニ歸順シテ唯命是從フノミ佛  
帝ハオウストルリツノ陸戦ニ大勝利ヲ得タレ  
同年西タラフルガル西ノ水戦ニハ佛蘭西西  
班牙ノ軍艦隊英ノ水師提督子ルソンノ為ニ破ラ  
レ殆ト兩國ノ海軍ヲ失ヒ盡セリ○普魯士王前車  
ノ覆ルヲ見テ之ヲ戒メス千八百六年魯奥ノ例ニ  
效テ佛蘭西ヲ攻メントセシニ佛帝兵ニ將トシテ

之ヲ迎へ側ヨリ其陣ヲ突テ糧道ヲ絶チ一戦ニ普  
軍ヲ破テ又敵ヲ見ス勢ニ乘シテ其首府ベルリ  
ヲ取り一月ヲ出デズシテ普魯士ノ全國佛帝ノ手  
ニ落タリ翌年魯西亞帝又兵ヲ出タシ普魯士ノ殘  
兵ヲ集メテ佛軍トフリードランドニ戦テ勝敗決  
セスト虽此一戦ヲ以テ魯西亞ハ面目ヲ改メ魯  
佛ノ両帝親カラナルシトニ會シ双方互角ノ條約  
ヲ結ヒ普魯士王モ魯帝ノ周旋ヲ以テ舊地ノ半ヲ  
得タリ○佛帝ベルリニ於テ各國へ命ヲ下タシ  
英國ノ產物ヲ歐羅巴本州へ輸入スルヲ禁シタリ

蓋シ貿易ヲ妨ケテ英人ヲ苦シメントスルノ策ナ  
 リ此時ニ至テ佛蘭西ノ國力盛大ヲ極メ漸ク國內  
 ノ營繕ニ心ヲ用ヒ橋ヲ架シ川ヲ掘リ道路ヲ修理  
 シ殿堂ヲ建立シ府内ノ壯麗又昔日ノパリスニ非  
 ラスコルド・ナポレオント稱スル律令モ此時ニ定  
 タルモノナリ此律令一度ヒ行ハレテヨリ佛蘭西  
 ノ政治ハ至惡ノ極ヨリ至善ノ極ニ變シ法令ノ齊  
 整ナルヲ歐羅巴諸邦ニ冠タリ蓋シ佛帝ノ天資用  
 兵ニ妙ナルノミナラス治國ノ才モ亦凡ナラサル  
 ナリ○西班牙ノ君チャールズ暗弱ニシテ國政大ニ

亂ル佛帝此機會ニ投シテ別ニ西班牙ト條約ヲ結  
 ヒ葡萄牙ニ迫テ英國ト交ヲ絶タシメ隨テ又葡ノ  
 王室ヲ廢スルノ命ヲ下タシ葡萄牙ノ君ハ英船ニ  
 乘テ南亞米利加ノブラシリニ出奔シ國亡ヒタリ  
 佛帝又西班牙ノ内亂ニ乘シ欺テ西班牙王ヲ捕ヘ  
 ボルボン姓ノ君ハ西班牙ニ王タル可ラストテ帝  
 ノ弟ヲ立テ、西班牙王ニ封シタリ西班牙相續ノ事ハ前ニ出  
 西班牙ノ人民コレヲ怒テ諸方ニ蜂起シ英ノ政府  
 モ兵ヲ出タシテコレヲ接ケタレモ佛帝ノ親征ニ  
 逢ヒ西班牙ノ兵ハ盡ク敗走シ英人モ僅カニ隊伍

ヲ全フシテ歸ルヲ得タルノミ帝ノ西班牙ニ在ル  
 氏墾地利ニテ再ヒ兵ヲ舉ケントスルノ報告ヲ得  
 テ急ニ師ヲ返シパリスニ過ラスシテ直ニ日耳曼  
 ノ地ニ出テ軍略ヲ以テ墾ノ兵ヲ分クシメ交コレ  
 フ伐テ皆コレヲ破リ遂ニ墾ノ首府<sup>井</sup>ナノ城下  
 ニ迫リワグラムノ一戰ニテ勝敗ヲ決シ墾帝又和  
 睦ヲ乞ハリ此一敗ヲ以テハ人皆墾地利ノ滅亡ヲ  
 期セサルモノナカリシニ豈圖ラン和約ノ箇條甚  
 タ寛大ナレハ更ニ又天下ノ耳目ヲ驚カセリ蓋シ  
 佛帝ノ權謀ナリ先キニ帝一貴族ノ寡婦<sup>ゴ</sup>一セ

シテ娶テ子ナシ之ヲ患ル久シ且又舊國ノ王族  
 ニ替シテ自己ノ權威ヲ固クセンコトヲ欲シワグラ  
 ム戰爭ノ後ニ無辜ノ皇妃ヲ離別シテ墾地利帝ノ  
 女マリヤロイサヲ娶レリ千時千八百十年ナリ此  
 一舉ヲ以テ佛帝ハ大ニ人望ヲ失シタリト云フ○  
 魯西亞帝ハ佛蘭西ト墾地利ト和睦セルヲ見テ必  
 ス又魯佛相敵スルノ勢ニ至ル可キヲ知り既ニ佛  
 蘭西ノ條約ヲ重ゼズ當時魯西亞ノ人竊ニ英ノ產  
 物ヲ國內ニ輸入スル者アレ比魯帝敢テコレヲ咎  
 メスナポレオン此事情ヲ聞テ怒ル一甚クシ直ニ

兵ヲ殺シテ魯西亞ヲ攻メントシ群臣コレヲ止レ  
氏聽カス此時ニ於テ佛蘭西ニハ五十萬ノ兵アリ  
將士ノ勇武伍卒ノ熟練天下古今ニ比類ナク全歐  
羅巴洲ニ於テ魯西亞西班牙英吉利ヲ除クノ外ハ  
盡ク佛蘭西ノ命ニ服シテ佛帝ハ恰モ諸王ノ王々  
ルカ如ク各國ノ君ニ君臨シテ進退意ノ如クナラ  
サルハナシ魯西亞ノ如キハ固ヨリコレヲ蔑視シ  
テ出師ノ前既ニ必勝ヲ期セリ乃チ輿地利ニ命シ  
テ三萬ノ兵ヲ出タシメ普魯士ハモ二萬ノ出兵ヲ  
命シ千八百十二年佛帝大軍ヲ帥テ東ニ出テ第五

月十六日、日耳曼ノデレスゲンニ會シテ軍議レ魯  
西亞征伐ノ檄文ヲ布告セリ魯人ハ戰ハスシテ敵  
ヲ苦シメントスルノ策ヲ決シ未タ佛兵ヲ見スシ  
テ先ツ自カラ火藥庫ヲ毀チ家屋ヲ破リ糧食ヲ盡  
シテ深ク内地ニ退ケリ初メ佛帝ハ魯西亞ノ首府  
バイトルスボルフニ入ラントスルノ策ナリシガ  
海軍利アラザルヲ以テ策ヲ變シ舊都モスコロー  
攻メントシテスモレンスコニ至レリ此地ニテ魯  
西亞ノ兵始テ見ハレ防戰屢利アレ氏長ク戰ハス  
自カラ火ヲ放テ邑城ヲ燒キ河ヲ渡テ退ケリ魯西

亞ノ將軍デトリ諸軍ニ号令シテ次第ニ内地ニ引  
ントスレモ兵士ノ議論沸騰シテ上命ニ従ハス遇  
デトリハ軍務宰相ニ命セラレテ首府ニ歸リトコ  
ソフナル者代テ指揮ヲ執リ遂ニ兵士ノ論ヲ鎮ル  
一能ハスシテ戰議ニ決シ第九月七日ホルダノ及  
ヒモスクワニ佛ノ兵ヲ迎ヘテ血戰シ曉ヨリ暮ニ  
達シテ勝敗相分タス双方ノ死者八萬人ニ下ラズ  
魯人ハ殘兵ヲ集メテ靜ニ退キモスコノ道路ニ  
敵ヲ防クモノナシ佛帝勢ニ乘シテ都府ニ入り其  
景況ヲ見ルニ府民ハ早ク既ニ家ヲ空フシテ其行

ク所ヲ知ラス夜ニ入り府内ノ諸方ヨリ一時ニ火  
ヲ發シ佛人コレヲ救ハントスレモ魯ノ間者預水  
道ノ管ヲ絶テ汲水ノ便ナク火焰益盛ニシテ近ツ  
ク可ラス四日ノ間ニ殆ト府内ノ家ヲ燒盡シテ殘  
レル者ハ僅カニ五分ノ一ニ佛蘭西ノ兵ハ漸々  
糧食ニ乏シク且北地ノ冬ニ慣レス饑寒共ニ至リ  
進退惟谷キハ和ヲ講セントスレモ魯人コレヲ聽カ  
ス乃チ師ヲ旋サントスルニ決議シテ第十月二十  
二日モスコノヲ發シ病傷ニテ軍ニ從フ一能ハガ  
ル者ハ盡ク敵地ニ遺セリ魯ノ將軍コトソフ早ク

既ニ其歸路ヲ要シマロヤラスレウチニ於テ先ツ  
 コレヲ撃テ次テ又佛軍ノ側ニ浴ヒコレト並行シ  
 テ兵ヲ進メ隙ヲ見レハ側ヨリコレヲ突キコサツク  
 ノ兵隊本編魯西亜ノ条ヲ見ル可シモ前後ヨリ起テ道路ヲ妨グ  
 佛人ハ一步ヲ進ル毎ニ敵ニ遭ハガルハナシ數萬  
 ノ兵卒隊伍ヲ亂タリ輜重ヲ棄テ大砲ヲ奪ハレ水  
 ヲ踏テ溺ル、セアリ橋ヲ渡テ墜ル者アリ其艱難  
 名状ニ堪ヘス佛帝モ僅カニ生命ヲ全フシテ第十  
 二月五日パリスニ歸ルヲ得タリ初メ帝ノ師ヲ出  
 セシバハハ總員六十萬人ニ近カシ此大兵生テ歸ル

モノハ十分ノ一ノミ○此敗軍ニ衆シテ普魯士ノ  
 人其獨立ヲ恢復セントシ佛蘭西ニ叛テ瑞典及ヒ  
 魯西亞ニ與セリ佛帝ハ戰爭ニ敗ル、臣臣未タ國  
 民ノ信ヲ失ハス新ニ兵ヲ募テ既ニ三十五萬ヲ得  
 タリ三月ノ間ニ此大軍ヲ裝ヒ四月十八日復々  
 日耳曼ノ地ニ出テタルニ魯西亞ハ未タ全軍ヲ出  
 タスニ暇アラス其兵ノ半ヲ以テ普魯士ト合シ決  
 戰ニ回ニシテ遂ニ佛ノ為ニ敗ラレ互ニ休兵ヲ約  
 シタレト其後奧地利モ亦同盟ニ與ニシタリ○數  
 年以前ヨリ英ノ將軍エルトント兵ヲ卒ヒテ葡



葡萄牙西班牙ノ地ニ上陸シ兩國ノ人民ヲ接ケテ佛  
兵ヲ防キ互ニ勝敗アリ千八百十三年第五月ヨリ  
又戦争ヲ始メ第六月下旬大ニ佛蘭西ノ兵ヲ破リ  
葡西兩國ノ地ニ又佛ノ兵ヲ見ス○日耳曼ノ地ニ  
於テハ佛帝デレスデンニ本陣ヲ定メ同盟ノ兵コ  
レヲ攻メレレ勝タス第八月ヨリ第十月ニ至ルマ  
テ同盟ノ兵ハ次第ニ増加シ同月レイプシックノ戰  
ニ於テハ佛帝圓陣ヲ設テ各方ニ敵ヲ受ケ味方ノ  
陣路ヲ遮クシテ應援ヲ便ニシ同盟ノ兵ハ其外ヲ  
圍テ亦自カラ圓陣ヲ成シ周圍遠クシテ應援不便

ナレレ隨テ勝チ隨テ迫リ十五日ハ其極度ニ至レ  
リ實ニ此一戰ニ於テハ佛帝モ最後ノ力ヲ盡シ用  
兵ノ妙奇ヲ極メテ昔日ノ名譽ヲ辱シメスト魚氏  
衆寡敵セス十六日ヨリ十八日ニ至ルマテ苦戰シ  
テ事ノ成ラザルヲ知り乃チ圍ヲ突テ兵ヲ引タリ  
○レイプシックノ一敗ヲ以テ世ノ形勢立トコロニ  
變シ日耳曼ノ諸國ハノールブルグロンスウキ  
セ等皆獨立恢復ヲ唱ヘ和蘭モ舊ノ大統領ヲ英ヨ  
リ迎テ佛ノ羈絆ヲ脱シ甚シキハ佛蘭西ノ本國ニ  
モ既ニ黨類ヲ生シ或ハボルボンノ王室ヲ起サン

トスルモノアリ或ハ共和政治ニ復セントスルモノアリ千八百十四年第三月同盟ノ兵[パリス]ニ入テ守兵ヲ破リ同時ニ英ノ將軍[エルリントン]ハ西班牙ヨリ次第ニ兵ヲ進メテ既ニ佛蘭西ノ南境ニ迫レリ同盟ノ兵ハ唯佛蘭西帝ヲ罪シテ佛蘭西人ニ敵セザルノ趣意ニテ[パリス]ニ入リシ後モ亂暴ノ兇置ナシ議事ノ官員ヲ命シテ假ニ政府ヲ建テ第四月十一日帝位ヲ廢シテ地中海ノ[エルバ]鳴ニ流セリ但シ其待遇ハ頗ル厚シ其他帝家ノ親族ハモ相當ノ扶助ヲ與ヘテ寬大ノ意ヲ示セリ第五月

三日第十六世ロイスノ弟ヲ迎ヘテ即位ノ禮ヲ行フ之ヲ第十八世ロイストス同月晦日[パリス]ニ於テ同盟ノ各國ト和睦ノ條約ヲ結ヒ萬歳ノ太平期ス可キニ似タリ  
第十八世ロイスハ温良ノ君ニテ即位ノ後專ラ外國ノ交ヲ厚クシ其力ヲ假テ國內ヲ鎮撫センニ心ヲ用ユレ凡人民ハ數十年ノ戦争ニ慣レテ太平ノ靜ナルニ堪ヘス老将勇士皆髀肉ノ生スルヲ歎セサルモノナシ且外國ニ迫ラレテロイスヲ立テシトノトヲ以テ深ク國辱ト為シ機會ノ乘ス可キ

アラハ事ヲ起サントスル者多シナポレオン此事  
情ヲ察シ密ニエルバ嶋ヲ脱シ千人許ヲ從ヘテ佛  
蘭西ノ南岸カニ子スニ上陸セリ實ニ千八百十五  
年第三月一日ナリ全國ノ人帝ノ上陸ヲ聞キ未タ  
其舉動ヲ見サルモ既ニ其名ニ歸服シ帝旗ノ向フ  
處箒食壺漿シテコレヲ迎ヘサルハナシ兵士雲集  
シテ隨處ニ其數ヲ増シ同月二十日直ニパリスニ  
入テ府内ノ兵隊モ盡クコレニ應シ一發ノ彈丸ヲ  
費サス一滴ノ血ヲ流サス再舉以來未タ一月ニ滿  
タズシテ佛蘭西ノ全國復タナポレオンノ手ニ歸

シロース王ハ竊ニ出奔セリ此時ニ當テ各國ノ公  
使輿地利ノ首府井ナニ會同シ遇此報告ヲ得テ  
乃チ特ニ條約ヲ結ヒナポレオンヲ廢スルニ至ル  
マテハ輿地利魯西亞普魯士英吉利ノ四國各十五  
萬ノ兵ヲ備フ可シトノ議ヲ定メ佛帝ノ位ニ復ス  
ルヲ許サス○英吉利普魯士ノ兵隊先ツ白耳義ノ  
境ニ集リ英ノ將軍モルリントシハ白耳義ノ首府  
ブロッセルスヲ本陣ニ定メ普ノ將軍ブリューセルハ  
子トナルニ陣セリ輿地利ノ兵モ伊太里ノ北方ヨ  
リ進テ其路ニアリ西班牙ノ兵ハ南ヨリ迫リ魯西

亞ノ兵モ將サニ戰場ニ来ラシトセリ佛帝自國ニ  
敵ヲ受ルノ不利ヲ知り同盟ノ兵ニ先テ事ヲ起シ  
不意ニ一戰シテ功ヲ成サシト欲シ第六月十日ニ  
十五萬ノ兵ヲ帥ヒテパリスヲ出ツ出陣ノ兵ニ  
告テ云ク余ハエルリントニ對シテ余ガ用兵ノ  
巧拙ヲ試シト欲スルノミト同月十五日普魯士ノ  
先鋒隊ヲ伐テ進テリグニ至リ其本陣ニ迫レリ  
佛軍ノ神速ナルヲ殆ト人知ヲ以テ測ル可ラス十  
五日ノ宵ニ至ルマテ英ノ陣舎ニテハ毫モ其動靜  
ヲ知ラス遇陣中ニテ宴ヲ開キ酒興方サニ闌ナル

ニ當テ遠方ノ砲聲歌舞ヲ驚カシ半夜俄ニ戰装ヲ  
整ヘタリト云フ十六日午時佛帝親カラ本隊ヲ以  
テ普魯士ノ兵ヲ撃テ血戰時ヲ移シテ遂ニコレヲ  
退ケタレト別將ニイハ英軍ト戰テ利アラス翌十  
七日エルリントニ普魯士ノ應援ヲ近クセンカ為  
ワートルローニ退キ大雨ヲ冒シテ山上ニ陣ヲ布  
キ備ヲ固クシテ之ヲ守レリ十八日朝濛雨昨日ノ  
如シ佛帝モ亦山ニ陣シテエルリントノ陣ト相  
對セリ方サニ是レ天下ノ兩雄中原ニ相逐ヒ鹿誰  
レノ手ニ落ルヲ知ラサルノ日ナリ本日兩將ノ爭

フ所ハ唯時刻ニ在リエルリントシハ滿ヲ持シテ  
普魯士ノ兵ノ至ルヲ待タントシナポレオンハ期  
ニ先テ勝ヲ決セントシ午時佛陣ヨリ劇シク大砲  
ヲ發シ烟ニ乘シテ英軍ヲ犯シ利アラズ第二回ハ  
胸甲騎馬隊ト歩兵隊トヲ以テ英ノ中軍ヲ犯シ其  
騎兵半途ニシテ英ノ騎馬隊ニ逢ヒ退テ大砲隊ノ  
後ニ退キシキ英ノ騎兵コレヲ逐フイ遠キニ過キ  
佛兵却テ又コレヲ突キ大ニ英ノ騎兵ヲ破タレヒ  
歩兵隊ハ進テ英ニ破ラレタリ第三回ハ英陣ノ右  
翼ヲ犯セリ英ノ歩兵ハ數個ノ方阵ニ分テ碁盤ノ

形ニ排列シ大砲三十門ヲ備テ其前面ヲ護リ以テ  
敵ノ至ルヲ待チシニ佛ノ騎兵直ニ其大砲隊ヲ破  
リ進テ方阵ニ迫ツケヒ英ノ歩兵ハ滿ヲ持シテ放  
タス漸ク迫テ歩騎相距ル一十ヤード一ヤード  
ナニ至リ萬彈一時ニ發シテ斃ルハ者數ヲ知ラス  
然レヒ一騎モ背ヲ示シテ退クモノナシ尚進テ方  
陣ノ間ニ乘込ミ直ニ銃鎗ノ尖頭ニ接シテ死力ヲ  
盡シ遂ニ英ノ歩兵隊ヲ亂タル一能ハス三回ノ接  
戦ニ七時ヲ費シ皆功ヲ奏セス英陣ノ兩翼ハ次第  
ニ進ミ初メハ其陣列凸形ナリシモノ漸ク變シテ

凹形ト為リ普魯士ノ先鋒隊モ遙ニ林樹ノ間ヨリ見ハレリナポレオン自カラ謂ラク佛蘭西帝國ノ存亡今日ノ一戰ニ在リト乃チ帝ノ親兵ヲ分テ二隊ノ縱陣ト為シ將軍ニイニ其指揮ヲ命シテコレニ告テ云ク敵若シ劇シク放發スルイアラハ我勝利必セリト佛ノ精兵ハ先ツ大砲ヲ放テ直ニ英ノ陣ヲ衝カントシタレヒ英ノ兵隊ハエルリントシテノ号令ニ從テ遠ニ放發スルイナク地面ニ伏シテ彈丸ヲ避ケ敵兵ノ近ク迫ルニ及テ乃チ起リ前後四列ノ橫陣ヲ立テ、一時ニ放發シ彈丸急雨ノ如

ク止マサルイ又シ遂ニ佛蘭西ノ隊伍ヲ亂タリ普魯士ノ兵モ其處ニ會シテ遂ニ全勝ヲ得タリ本日ノ勝利ハ獨リ英人ノ功ナレヒ其失フ所モ亦少ナカラズ死傷ノ數將士六百人歩卒一萬五千人ナリシト云フ○佛帝パリスニ歸リ或人亞米利加ニ出奔セシイヲ勸メタレヒ躊躇シテ決モス後其策ニ從ヒロシホルトノ海岸ニ至レヒ既ニ期ニ後レテ航海ノ便ナク第七月十五日英ノ船將メリトラントニ降レリ不日ニシ各國議ヲ決シ再ヒナポレオンノ帝位ヲ廢シ亞非利加西方ノ孤島ニシトスレ

ナニ流シ禁錮六年ニシテ千八百二十一年第五月五日嶋ニ死セリ  
 第十八世ロイス再ト位ニ復シタレ氏此度ニ至テハ各國ノ政府モ佛蘭西ヲ遇スルコト寛大ナラス攻メテ條約ヲ結ビ外國ノ兵隊ヲ佛ノ國內ニ屯シテボレオシノ時代ニ諸國ヨリ分捕シタル品物ヲ其本國ニ返シ國境ノ諸城ヲ外國ニ預ケワーートルロ  
 一ノ軍費ヲ各國ニ償フ可シトノ約ヲ定メリ○佛蘭西ノ威名俄ニ衰ヘ人民ノ不平ナルハ固ヨリ論ヲ俟タス然ルニ國王ハ外國人ノ力ニ由テ位ニ復

シ且先キニ英吉利へ出奔セシ氏其待遇厚カリシヲ以テ專ラ英ノ政府ヲ親シマントシテ既ニ人心ヲ失シ之ニ加フルニ國內ノ政モ舊時ノ王政ニ復シテ人民ノ自由ヲ奪ハントスルノ裏置多ケレハ物論益々穩ナラス竊ニ黨與ヲ分テ又爭論ヲ醸スノ勢アリ千八百二十四年第十八世ロイス死シテ子ナシ弟立ツ之ヲ第十世チャールレストスチャールレス即位ノ初メハ政治頗ル寛大ナルニ似タレ氏其實ハ然ラス王ノ大ニ欲スル所ハ唯朝威ヲ興張セントスルニ在ルニ出版ノ自由ヲ禁シ衆庶ノ會議ヲ

廢シ人物選舉ノ法ヲ改ル等ノ處置ニ由リ國民ノ  
不平ヲ唱ル者甚ク多シ千八百三十年亞非利加ノ  
北岸「アルジール」國ヲ征シテ之ヲ滅シ此一舉ヲ以  
テ復佛蘭西ノ威名ヲ海外ニ耀カシタレモ尚<sup>ホ</sup>人心  
ヲ和スルニ足ラス同年第五月新聞紙局ノ版ヲ没  
入シ新聞紙ノ開版ヲ止メントセシヨリ遂ニ又争  
亂ノ端ヲ開キ「パリ」スノ府民護國兵ノ戎服ヲ着シ  
テ漸ク官軍ニ迫リ官軍ノ兵隊ニモ官ヲ去テ護國  
兵ニ歸スル者多ク朝威ヲ以テ之ヲ制スルヲ得ス  
護國兵ハ「ラフェツタイ」前ニヲ奉シテ將軍ト爲シ假

ニ政府ヲ設ケリ此度ノ亂ハ第五月二十七日ニ始  
リ二十九日ニ終リタルヲ以テ三日ノ騷亂ト稱ス  
第六月晦日ニ至リ「オルク」トスノ君ヲ迎テ王位ニ  
奉シ「ラフェツタイ」ロイスヒリ「ト」ス第十世「チャール」スハ  
妻子ヲ携テ英吉利ニ出奔セリ是ニ於テ佛蘭西ノ  
人民合衆政治ヲ欲スルモノ多ク「ラフェツタイ」固  
ヨリ合衆政治ヲ好ミ亞米利加合衆國ノ政体ヲ盡  
善盡美ノモノト爲シテ中心ニコレヲ慕フト然レ  
顧テ佛蘭西ノ風俗ヲ察スルニ教育未ク洽子カラ  
ス人智未ク開ケス又ニ制セラレ、ニ慣レテ自カ



ヲ制スルヲ知ラス斯ノ如キ人民ヲ放テ遽ニ自主  
自制ノ合衆政治ヲ行ハシムルハ必ス十全ノ策ニ  
非ラザルヲ先見シテ乃チ其意ヲ狂ケ國王ヲ立テ  
、其權威ニ分限ヲ定ム可シトノ説ヲ主張シ會議  
ノ人モラフエツテイノ説ニ同意セリ即チロイスヒ  
リッフノ王位ニ昇リシ所以ナリロイスヒリッフ即位  
ノ初年ハ已ヲ虚フシテ民庶ノ利害ヲ謀リ農ヲ勸  
メ商ヲ勵マシ外國ノ交際ヲ保テ干戈ヲ勤サス漸  
ク國ノ富强ヲ致シテ民心歸服セシト雖此君ハ  
所謂有始無終者ナリ晩年ニ及テ次第ニ其私欲ヲ

逞フシ專ラ王室ノ親族ニ權威ヲ収メントシテ又  
國民ノ苦樂ヲ問ハス千八百四十八年第二月議事  
院發會ノ政府ノ命ヲ以テパリス府内ノ某處ニ  
民庶ノ會議ヲ禁スルトノ議ヲ決セリ蓋シ此集會  
ハ從來府民ノ風習ニテ改革ノ宴ト名ケ議員選舉  
ノ事等ヲ談スル為ニ設ルモノナレハ政府ノ命ヲ  
リト雖ルコレヲ聞カス既ニ期日ニ至リ府内ノ人  
故サラニ其會ニ出席シテ下民ノ決意ヲ示サント  
スルノ勢アリ政府ハ兵威ヲ以テコレヲ壓セント  
シ急ニ隊伍ヲ裝ヒ十萬ノ兵ヲ以テ市中ヲ守ラシ

メタレヒ兵士ハ固ヨリ市民ニ敵對シテ戰フノ意  
ナシ群民各處ニ蜂起シテ人氣愈々熾ナラザル時ニ  
當テ遇兵隊ヨリ發砲シテ五十二名ノ市人ヲ殺シ  
此一舉動ヲ以テ忽チ戰鬪ノ端ヲ開キ「パリ」ノ府  
内復タ一場ノ戰地ト為レリ都下ノ工商貧富老少  
ノ別ナク各兵器ヲ携ヘテ王宮ニ迫レヒ守衛ノ兵  
隊ハコレヲ傍觀シテ防クモノナシ國王モ事急チ  
ルヲ知り僅カニ生命ヲ全フシ家族ト共ニ英國ニ  
出奔セリロイス・ヒリップ出奔ノ後ハ佛蘭西ノ政体  
復タ一新シテ合衆政治ト為リ「デュボンド」デロース

ラマルチン「アラゴ」ロルリン「ラモリ」ロルニ「ペ」ジ  
スカウエー「グナック」デ「コー」タリ「アス」等ノ如キ國內ノ  
人物輩出シテ事ヲ行ハトモ人心一致スルヲ得ス  
ラマルチンノ如キハ專ラ人情風俗ヲ察シテ當時  
ニ行ハル可キ合衆政治ヲ立テントシ「ロル」リンノ  
黨ハ其議論甚タシキニ過キ貴賤上下ノ別ヲ廢ス  
ルノミナラス國財平均ト稱シ富人ノ物ヲ取テ貧  
人ニ分チ國內ニ貧富ノ別モナカラシムルヲ説ク  
唱ヘリ物論喋々トシテ決スルヲナク名ハ合衆政  
治ナレヒ其實ハ政談家ノ黨與ヲ分チ兵力ヲ玩

權柄ヲ奪フノ策ヲ施スノミ同年冬議員選舉ノ期  
 至リ諸局ニテロイス・ナポレオン・ボナパルテヲ  
 用ヒントスルノ議ヲ發シテ急ニ之ヲ召シ第十二  
 月十日庶民ノ入札ヲ以テ合衆政治ノ大統領ニ任  
 セラレタリ即チ今ノ佛蘭西皇帝第三世ナポレオ  
 ンナリ

第三世ナポレオンハ第一世ナポレオンノ弟ロイ  
 ス第一世ナポレオンノ時ノ末子ナリ千八百八年  
 和蘭王ニ封セラレタリナリ千八百八年  
 四月二十日パリスニ生レ幼少ノキ專ラ母ノ教  
 育ヲ受ケリ千八百十五年ワルトルローノ敗後家

族ニ從テ日耳曼ノオウダスボルフニ遁レ此地ニ  
 テ日耳曼ノ語ヲ學ヒ次テ又瑞西ニ行キ又伊太里  
 ニ遊ヒレバスニ從テ合衆政治ノ趣意ヲ聞キ頗ル  
 所得アリ千八百三十年騷亂ノ時ニ當テ歸國ヲ歎  
 願シタレ氏佛蘭西王ロイス・ヒリップコレヲ許サズ  
 後英國ニ行キ又歸テ母ノ舊里トルゴ瑞西ニ歸  
 リシニ遇第一世ナポレオンノ實子レイチノタト  
 病ニ罹リ死シテ後ナシ乃チロイス・ナポレオンヲ  
 以テ其相續ニ定メタリ蓋シロイス・ナポレオンノ  
 大志ヲ立テ帝家ノ舊物ヲ恢復セントスルノ心事

ハ既ニ此時ニ成レリ爾後類リニ書ヲ著述シテ政  
 治ノ得失ヲ論シ第一世ナボレオンノ策略ヲ記シ  
 テ其策ノ佛蘭西國ニ適當セル所以ヲ稱譽シ暗ニ  
 人心ヲ煽動セリ千八百三十六年佛ノ東境スタラ  
 スボルフノ番兵ト相謀テ兵ヲ舉ケ勝タスシテ囚  
 俘ニ就キ亞米利加ニ放逐セラレ翌年母ノ病ヲ聞  
 テ竊ニ舊里ニ返タレレ佛ノ政府コレヲ許サス乃  
 テ復タ英國ニ行キ千八百四十年第一世ナボレオ  
 ニノ舊臣五十人ト共ニ船ニ乘テ佛ノ北岸ブリ  
 ニニ上陸シ兵ヲ募レレ應スル者少ク又捕ヘラ

レテ生涯禁錮ノ罰ヲ受クハムノ城内ニ閑居セリ  
 此禁錮中ニ閑暇ヲ得テ著述甚タ多シ皆政治形勢  
 ノ議論ナリ城内ニ在ル一六年守衛ノ緩ナルヲ窺  
 ヒ一醫師ノ助ヲ得テ役夫ノ衣服ヲ着シ伴テ城門  
 ヲ出テ英國ニ脱走セリ居ル一二年千八百四十八  
 年ノ騷亂ニ及ヒ始テ青天白日ノ期ニ遇ヒパリ  
 ニ召サレテ大統領ノ職ニ就キ多年ノ志願ヲ達ス  
 可キ地位ヲ得タリコレヨリ大統領ハ専ラ人心ヲ  
 収テ自家ノ威力ヲ固クスルノ策ヲ施シ權謀至ラ  
 サル所ナク國中大半ノ人ハ皆コレニ籠絡セラレ

テ統領ノ威名日ニ盛ナリ當時在職ノ官員モ盡ク  
皆有名ノ人物ナレバナボレオンノ智略ニ壓倒セ  
ラレテ殆ト失路ノ勢ニ及ヘリ千八百五十一年春  
將軍「チャンガルニール」ノ官ヲ免シテ兵權ヲ大統領  
ノ手ニ執リ同年第十二月二日不意ニ事ヲ發シテ  
議事院ヲ閉シ議員百八十名ヲ捕ヘテ其魁首タル  
者ハ直ニ獄ニ下タシ勢ニ乘シテ大統領在職ノ期  
限ヲ十年ニ定メリ千八百五十二年大統領帝位ニ  
昇ルノ議ヲ發シテ國中ノ人民此議ニ應スル者多  
ク第十二月二日即位ノ禮ヲ行ヒ佛蘭西皇帝第三

世「ナボレオン」ト稱ス尔後佛蘭西ノ國力益盛大ヲ  
致シテ皇帝ノ名威全歐羅巴洲ニ轟キ各國ノ政府  
佛帝ノ喜怒ヲ窺テ自國ノ禍福ヲトスルニ至レリ  
千八百五十四年英ト共ニ土耳其ヲ救テ魯西亞ヲ  
攻メ二年ノ大戦争ニ及ヒ千八百五十六年和議成  
リ千八百五十九年帝親カラ兵ニ將トシテ伊太里  
ニ出テ「サルゲニヤ」ノ王今ノ伊太里王ヲ助ケテ奧地利  
ト戦テコレニ勝テ同年第七月和議成ルニ及テ佛  
蘭西ハ「ロシバル」ノ地ヲ取レリ

政治

千八百三十年佛蘭西ノ政体一度ニ改マリ立君定律ノ法ニ基ツキ血統ノ男子位ヲ継キ上下兩局ノ議事院ヲ設テ政ヲ為セリ千八百四十八年第二月ノ騷亂ニ及テ此政体又一新シテ合衆政ト為リ國民一般ノ入札ヲ以テ七百五十人ノ議員ヲ選舉シテ政ヲ為セシカ千八百五十一年以後屢々總裁ヲ更シテ國政ノ權柄遂ニナポレオン一人ノ手ニ歸セリ千八百五十二年第一月十四日ノ法令ニ從ヘハ政府ノ体裁裁左ノ如シ

第一 行政ノ權、國帝ニ在リ

第二 事務執政、國帝コレヲ命ス

第三 國議ノ員、執政ノ命ニ從テ國法ノ議ヲ案ス

第四 議政ノ員、國民一般ノ入札ヲ以テ選舉シ政

ヲ議ス

第五 二等會議ノ員、國中有名ノ人物ヲ集メテ政

体ヲ保護シ人民ノ自由ヲ助ケ權威折衷ノ趣旨ヲ

論セシムルモノ

國帝ハ過失アルモ罪其身ニ及フ可ラス執政官ヲ

黜陟スルノ權アリ罪人ヲ赦スノ權アリ吏人ヲ命

スルノ權アリ爵位ヲ與フルノ權アリ海陸軍ニ号  
令シ和ヲ議シ師ヲ起シ外國ト條約ヲ結テ貿易ヲ  
行ヒ或ハ外國ニ應接シテ攻防ヲ共ニスル等皆帝  
ノ權ナリ又國帝ハ議政ニ關ルハ急ニ議ヲ發シテ  
急ニコレヲ決スルノ權アリ何等ノ法令ニテモ帝  
ノ然諾ヲ得サレハコレヲ施ス可ラス何等ノ官員  
ニテモ帝ニ對シテ誓ハサル者ハ事ヲ行フヲ許サ  
ス○皇帝一歲ノ自用費二千五百萬フランクヲ以  
テ分限トス此外帝室ノ地面ヨリ稅ヲ収メ別ニ千  
二百萬フランクアリ歐羅巴諸帝王ノ内ニテ歲給

ノ最モ多キモノナリ  
事務執政ハ國帝ノ命スル者ニテ帝ノ意ニ適セサ  
レハ則チ其官ヲ免ス可シ各局ノ執政各其一局ノ  
事務ヲ治メテ互ニ相關係ナシ但シ當局ノ事務ニ  
付キ過失アルキハ其責ニ任セサル可ラス事務執  
政ノ罪ヲ白ス可キモノハ唯二等會議ノ員ノミ  
國議ノ員ハ四十名乃至五十名帝ノ命スル者ナリ  
一歲ノ給料二萬五千フランク其職掌ハ國帝及ヒ  
執政ノ命ヲ奉シテ法令ノ議ヲ案シヌレヲ議政ノ  
官員及ヒ二等會議ノ員ニ附與スルヲ司トル又國

議ノ負ハ政府ヨリ發シタル議案ノ趣意ヲ主張ス  
ルノ職介ナレバ會議ノ氏帝ノ命ヲ以テ議員ノ内  
ヨリ數名ヲ選ヒ二等會議ノ員及ヒ議政ノ員ニ對  
シテ政府議案ノ趣ヲ說辯セシム  
議政ノ員ハ國民ノ選舉スル者ナリ其員數ハ三萬  
五千人ノ入札ヲ以テ一人ヲ舉ルノ割合ナリ千八  
百六十六年ニハ國中ニ入札ヲ投スル者九百九十  
七萬五千六百十五人アリ議員ノ在職ハ六年ヲ限  
トシ會議ノ間一月ノ給料二千五百フランクヲ定  
トス其職掌ハ國議ノ負ヨリ發タル法令ノ議案ヲ

商議シ錢貨出納ノ事ヲ論ス但シ國人ノ歎願書ヲ  
受ルノ權ナシ議政ノ會席ハ每年六箇月ヲ限トス  
會議ハ衆人ノ聞クヲ許セトモ議員五名ノ請求ア  
レハ密議スルモ妨ナシ議長副議長ハ天子ヨリコ  
レヲ命ニ在職一年ヲ限トス都テ會議ヲ命シコレ  
ヲ延期シコレヲ敢スルハ帝ノ權ナレト敢會ノ後  
六月ノ内ニ又選舉セサル可ラス  
二等會議ノ員ハ權威折衷ノ旨ヲ主張スルモノニ  
テ或ハ之ヲ縉紳ノ會議ト云フ即チ其議員ハ僧官  
及ヒ海陸軍ノ總督等是ナリ其員數百五十人ニ過



キス天子ノ命スル所ナリ一歳ノ給料三萬フラン  
ク此議員ハ議事ノ職ヲ辞スルモ其爵位ハ身ニ附  
シテ生涯コレヲ失ハス議政ノ官負ニテ議案ヲ發  
スルモ縉紳會議不然諾ヲ得サレハ定メテ法令ト  
為スヲ許サス且縉紳ノ會議ハ國人ノ歎願書ヲ受  
ルノ權アリ事務執政ト共ニ謀テ國法改革ノ議ヲ  
發スルノ權アリ天子ノ允准ヲ得テ其改革ヲ施行  
スルノ權アリ又國ノ政体宗旨禮義風俗ヲ察シ人  
民ノ自由不自由裁判ノ正不正ヲ注意シ法令ニ失  
アレハ異議ヲ述ルノ權アリ都テ此議員在職ノ年

限ハ帝ノ命ヲ以テ之ヲ定ム但シ議長及ヒ副議長  
ノ在職ハ一年ヲ限トス  
事務執政ヲ十一局ニ分ツ第一大閣老直ニ國帝ニ  
接シ諸局ノ執政及ヒ議員ト國帝トノ間ニ立テ上  
下ノ通達ヲ司ル第二刑法事務執政第三會計事務  
執政第四帝室事務執政帝室所領ノ歳入ヲ處置シ  
諸議員ト會計出納ノ事ヲ謀ル故ニ其職掌或ハ會  
計事務執政ニ同シキトアリ又時トシテハ大閣老  
ニテ帝室事務執政ヲ兼ルトアリ第五國議ノ統領  
第六兵馬事務執政第七海軍及ヒ海外所領ノ事務

執政第八外國事務執政第九內國事務執政第十教  
育事務執政第十一農商及土木營繕ノ事務執政  
是ナリ  
輓近佛蘭西ニテハ教育ノ道大ニ進ミ文化次第ニ  
盛ナリ千八百六十五年教育事務執政ヨリ布告セ  
ル公書ニ據ルニ千八百三十二年ニハ初段ノ學校  
へ出入スル生徒ノ數人口千人ニ付キ五十九人ア  
リ千八百四十七年ニハ九十九人ハ分千八百六十  
三年ニ至テハ百十六人ノ割合ト為レリ學校ノ數  
亦甚タ多シ千八百四十七年ヨリ千八百六十三

年ニ至ルマテ十六年ノ間ニ新ニ學校ヲ開クイハ  
千五百六十六所生徒八十萬零六千二百三十三人  
ヲ教育セリ之ヲ年數ニ平均スレハ此新開ノ學校  
ニテ教ヲ受ル者毎年九萬九千人ノ割合ナリ○全  
國ヲ三萬七千五百十區ニ分チコレヲコンミュニ  
シ云フ每區多少ノ學校アリ或ハ少キモ必ス一所  
ヲ設ルヲ法トス其未タコレナキモノハ國中僅カ  
ニ八百十八區ノミ但シ學校ナキ區内ノ者ニテモ  
必ス其近鄰ニ行テ學フベキ方便アリ國中ノ人口  
ヲ計テ八歳以上十一歳以下ノ兒童ニテ學校ニ行

カザル者ハ二十萬人ニ過キス千八百六十三年學  
校ヨリ出デシ兒童ヲ試ルニ百人ノ内六十人ハ皆  
ヨク書ヲ讀ミ字ヲ書キ算術ニモ差支ナシ残り四  
十人ハ吟味ヲ受テ落チシモノナリ  
公報ニ據ルニ千八百六十三年第十月佛蘭西ノ全  
國ニ初段ノ學校八萬二千百三十五所アリ蓋シ千  
八百四十八年ヨリ以來一萬六千百三十六所ヲ增  
シタリ學校ニ出入スル所ノ人員千八百四十八年  
ニハ三百七十七萬一千五百九十七人ナリシモノ  
千八百六十二年ニ至テハ四百七十三萬一千九百

四十六人ト為レリ即テ十四年ノ前後ヲ比較シテ  
凡百二十五萬ノ數ヲ増シタルナリ國中三萬六千  
四百九十九區ノ中ニ男女合併教育ノ學校四萬一  
千四百二十六所アリ此内三萬七千八百九十五所  
ハ俗人ノ教授ニテ生徒ノ數二百十四萬五千四百  
二十人其他三萬七千八百九十五所ノ學校ハ寺院  
講中ノ教授ニテ生徒ノ數四十八萬二千零々八人  
アリ兩様合シテ二百六十二萬七千四百二十八名  
ノ學童ヲ教ヘ惣數三分ノ一ハ學費ヲ出サシメス  
シテ教育スルモノナリ右ノ外女子ヲ教ユル學校

ノ數二萬六千五百九十二所ノ内一萬三千四百九十  
 十一所ハ俗人ノ教授ニテ他ノ一萬三千四百九十  
 一所ハ宗門ノ婦人教授ヲ司ル此學校ニ入テ教ヲ  
 受ル女子ノ數百六十萬一千二百十三人アリ其惣  
 數三分ノ一ハ倍人ノ學校ニ屬シ三分ノ二ハ寺院  
 ノ學校ニ屬ス又惣數四分ノ一ハ學費ヲ出サスシ  
 テ教ヲ受ル者ナリ一年ノ間ニ婦人ノ教師ヘ與フ  
 ル給料九百十六萬九千零三十フランク之ヲ平均  
 スレハ一婦人ニ六百五十五フランクヲ與フル割  
 合ナリ

佛蘭西ニ文教ノ盛ナルハ其軍政ヲ見テ亦知ル可  
 シ千八百六十六年軍務執政ノ公報ヲ見ルニ全國  
 ノ兵卒字ヲ知ラザル者ハ百人ノ内ニ三十人ノミ  
 ト但シ國中教育ノ盛否ハ處ニ隨テ一樣ナラス都  
 テ南方ノ文學ハ東北ノ盛ナルニ及ハスト云フ  
 海陸軍  
 佛蘭西ノ海軍ハ近頃百年以來屢盛衰アリ第十四  
 世及ヒ第十五世ロイスノ時代ニ一度ヒ盛大ヲ極  
 メ其後次第ニ衰テ又千八百五十五年ノ改革ニ由  
 リ再ヒ舊時ノ盛ナルニ復シタリ千七百八十年

五世ロイスノ海軍ハ第一等艦六十隻第二等艦  
 二十四隻以下小艦百八十二隻共計軍艦ノ數二百  
 六十六隻大砲一萬三千三百門水士七萬八千人ナ  
 リシガ千七百九十年ニ至テハ其數減シテ軍艦二  
 百四十六隻水士五萬一千人大砲一萬挺ニ足ラス  
 尔後尚<sup>ホ</sup>一層ノ衰微ヲ致シ千八百五年<sup>ニ</sup>タラフルガ  
 ルノ戰<sup>卷ノ四第一葉</sup>ニハ盡ク佛ノ軍艦ヲ用ヒタ  
 レ其數僅カニ十八隻大砲千三百五十二門ノミ  
 千八百四十四年<sup>ロイス・ヒ</sup>ハ帆前船二百二十六  
 隻蒸氣船四十七隻大砲八千六百三十九門水士二

萬四千五百十三人ト為リ千八百五十五年ニ至ル  
 マテ増減ナシ同年第三世ナポレオン<sup>帝</sup>海軍改革  
 ノ命ヲ下シテ大ニ軍艦ヲ製造セリ其種類左ノ如  
 シ  
 第一 帆前船ノ形ヲ變ス可キモノ 蒸氣船ニ變ス  
ルヲホフ子  
 コレヲ第一種トス  
 第二 飛船四十隻尋常ノ「ブレガット」ニテ遠方ヘ航  
 海ス可キモノ二十隻以下ノ船艦九十隻共計百五  
 十隻トス  
 第三 運送船七十五隻兵士四萬人軍馬一萬二千

足ヲ載ス可シ

第四 小船隊九ソ百二十五隻

第五 諸港守護ノ軍艦九ソ三十隻

以上軍艦ノ數合シテ三百八十隻此外ニ帆前ノ運

送船二十隻アリ此數ヲ加レハ惣數四百隻ノ軍艦

アリ千八百六十五年ノ春ニ至テハ佛蘭西ノ海軍

ニ甲鉄艦三十四隻アリ之ニ備フル大砲七百七十

六門蒸氣ノ力合シテ一萬九千零七十五馬力甲鉄

艦ノ内最モ大ナルモノニ隻アリ一ヲマゼンタト

云ヒ一ヲソルズリノト云フ各、大砲二十五門ヲ備

へ蒸氣ノ力一千馬力ナリ

佛蘭西ニテ海軍ノ人ヲ募ルハ其法陸軍ニ異ナラ

ス千六百八十三年ヨリ既ニ此法則アリ國中水邊

ノ業ヲ以テ生ト為セル男子ノ姓名ヲ記シ年齡十

八以上五十以下ノ者ヲ撰テ之ヲ役ス

千八百六十三年海軍事務執政ノ公書ニ據ルニ佛

蘭西海軍ノ士ハ第一等水師提督二名、第二等在勤

ノ水師提督十二名、同預備ノ水師提督十四名、第三

等在勤ノ水師提督二十四名、同預備ノ水師提督二

十名、第一等軍艦ノ指揮官百三十名、フレガット艦ノ

指揮官二百七十名。第一等士官七百五十名。第二等士官六百名。第一等稽古士官三百名。第二等稽古士官二百七十名。其他各處常住ノ士官七十五名。惣員合シテ二千四百六十七名。水夫ノ數三萬二千八百五十四人。外ニ又蒸氣方、醫員、教師等合シテ海軍ニ關係スル人員三萬九千二百五十四名ナリ。海軍學校ハツルロシ、ロリレント及ヒフレストニ在リ。アレストニハ大船ヲ繫キ船中ニ生徒ヲ入レテ教授ヲ爲スト云フ。此他海軍ノ小學校ハ國中ニ四十四所アリ。

○佛蘭西ノ常備兵ハ第十四世ヨリ始

リシモノナレ。現令行ハル所ノ法ハ騷亂ノ時代及ヒ第一世ナボロオシノ世ニ其基ヲ立テシナリ。兵士ヲ募ル法、國中ノ男子二十一歳ニ滿タル者ハ軍役ヲ免ル、ヲ得ス。在昔ハ毎年八萬人ヲ募ル。法ナリシガ千八百五十三年ヨリ千八百五十五年ニ至ルマテ東洋戦争ノ時ニハ募兵ノ數ヲ増シテ毎年十四萬ト爲シ千八百五十七年ニハ又コレヲ減シテ十萬人ト定メ伊太里ノ戦争ニ及ヒ又十

四萬人ト爲シ其後千八百六十一年以來ハ舊法ニ由テ十萬人ト定メリ○兵士在役ノ年限ハ七年ヲ以テ定メ法ト爲スト虽氏六年ヨリ長キモノハ稀ナリ大抵六年ノ後ハ家ニ返シ新募兵ト合シテ預備ト爲ス○毎年新募兵ノ數ハ多シト虽氏常備ノ員ニ加ハル者ハ其内ノ一部ノミ他ハ皆屯所ニ於テ六箇月ノ間調練ノ業ニ就カシム此六箇月ノ調練ヲ三年ノ間ニ行フカ故ニ練兵ノ時ハ毎年平均シテ二箇月ノミ此法ニ從ヒ千八百六十年ニハ生兵ノ熟練セル者三萬零九百五十五人千八百六十一

年ニハ三萬三千二百三十四人ヲ得タリ蓋シ此法則ハ第三世ナポレオンガ瑞西ニ在テ親カラ實驗セシモノヲ千八百六十年ヨリ以來佛蘭西ノ陸軍ニ施行セシナリ  
兵士ノ員ニ募ラレタル者ハ金ヲ以テ陳代ノ人ヲ買フ可シ昔日ハ此陳代ヲ求ルニ相對ノ談判ニテ價ヲ定メシナレモ千八百五十五年第八月新令ヲ下タシ政府ニテ此賣買ノ權ヲ占メ陳代ノ價ヲ官ニ取テ官命ヲ以テ老練ノ兵士ニ其軍役ノ年限ヲ重子シムルノ法ヲ定メリコレヨリ軍役ヲ以テ生



活ヲ爲サントスル者ハ悦テ他ノ陳代ヲ勤メ常備  
兵ノ内ニ自カラ老練ノ兵士ヲ増シタリ陣代ノ價  
ハ政府ヨリ之ヲ定メ毎年高低アリ千八百五十五  
年ニハ其價二千八百フランクナリシモノ千八百  
五十七年ニハ下落シテ千八百フランクト爲リ其  
後又騰貴シテ二千八百フランクト爲リシガ千八  
百六十三年軍務執政ノ命ヲ以テ二千三百フラン  
クト定メリ政府ハ此ヲ収メテ軍備ノ元金ト爲  
シ練兵ノ重年スル兵ニ若干ノ高ヲ與ヘ在役七年  
ノ後ハ給金ヲ増シ十四年ノ後ハ更ニ又之ヲ増シ

期ノ如クシテ四十五年ノ役ヲ勤メシ者ハハ役ヲ  
免シ一日ニ一フランクノ扶助金ヲ與フルヲ法ト  
ス都テ兵卒ハ其筋骨用ニ適スルノ間軍役ノ年期  
ヲ重ヌルヲ許ス給料ナキ郷團ノ兵ハ其數次第ニ  
減少セリ千八百五十二年前ハ郷團ノ數毎年一萬  
人ナリシモノ其數漸ク増加シ千八百五十五年ニ  
ハ二萬一千九百五十五人トナリシガ千八百六十  
年ニ至テハ僅カニ二千百九十二人ノミ  
左ノ表ハ千八百六十四年佛蘭西陸軍ノ備ヲ示ス  
モノナリ

佛蘭西ノ軍備		平時ノ備	戦争ノ備
將士ノ部	人ノ數	馬ノ數	人ノ數
步兵	七十七萬三千三百三十三	百六十	千八百四十一
騎兵	二十五萬五千六百五十二	三百二十四	五萬九千七百七十七
砲兵	六萬二千七百九十八	四萬九千四百三十三	十萬零二百二十一
土工兵	三萬九千八百八十二	一萬六千六百六十六	六萬六千三百三十三
重騎兵	七千四百八十六	八百八十四	一萬四千四百三十三
共計	一萬四千五百三十五	一萬三千七百六十九	二萬六千六百八十八
	一萬五千零六十六	五千四百四十二	三萬三千三百六十五
	四萬零四百九十二	八萬三千三百六十八	七十五萬七千七百七十七
			七萬三千二百三十八

佛蘭西ノ全國ヲ四大區ニ分テ兵備ヲ立テ每區一人ノ總督アリテ之ヲ支配ス此四大區ノ内ヲ分テ又コレヲ細分シテ各兵備ノ局アリ○國中一百十九城アリ其内第一等ノモノハ所[パリ]ス[リ]オ[ン]ス[タ]ラ[ス]ポ[ル]フ[ノ]ツ[リ]ル[レ]ツ[ロ]レ[グ]レ[ス]ト[セ]ル[ボ]ル[フ]是ナリ第二等ノ城十二所第三等二十三所第四等七十六所ナリ[パ]リ[ス]ノ城ヲ築クニ二億フランクヲ費シ[セ]ル[ボ]ル[フ]ノ城ニ一億七千萬フランクヲ費シタリト云フ佛蘭西ニテ常備兵ヲ養フニハ其費英國ノ兵備ヨリ少シ英國ニテハ平均兵

士一人ニ付一年ニ百零一ポントヲ費ス割合ナル  
ニ佛ニテハ僅カニ四十三ポント一シルリシグナ  
リ千八百六十四年佛蘭西陸軍ノ費用三億七千萬  
フランク即チ英ノ貨幣ニシテ一千四百八十萬ポ  
ントナリ

錢貨出納

千七百八十九年ノ騷亂ヨリ以前ハ佛蘭西ノ税法  
惡弊ノ極ヲ致セリ其法大概人ノ家産ニ就テ分頭  
税ヲ取ルト虽モ貴族富豪僧徒ノ如キハ此税ヲ免  
レテ問ハス又物品税ノ法モアレモ其規則極メテ

正シカラス或ハ賦役ト唱ヘ強ヒテ人ヲ役スルノ  
法ヲ設ク其苦役ヲ蒙ルモノハ獨リ貧寒ノ農民ノ  
ニ概シテ之ヲ云ヘハ一國ノ税法偏頗不正シテ苛  
刻ナルモノト称ス可シ騷亂ノ時ニ至テ此惡弊ヲ  
一新シ改メテ令ヲ下タシ國中ノ人民ハ其身分ノ  
區別ナク唯其貧富ニ準シテ國用ヲ助ク可シトノ  
法ヲ定メ此法ヲ施行センガ為初メハ專ラ分頭税  
ヲ試ミタレモ行ハレ難ク乃チ又物品税ノ法ヲ用  
ヒ舊來ノ弊風ヲ除テ全ク正ニ歸シ今日ニ至ルマ  
テ佛蘭西ニハ分頭税ヨリモ物品税ノ高ヲ多シト

ス方今分頭税ノ主タルモノハ第一地稅家稅ナリ  
 其貸料即チ地代ノ高ニ應シテ之ヲ収ム第二雜稅  
 其内「ブルタキスト」稱スルモノハ人別ニ就テ收ル  
 稅ニテ男子十八歲以上ノ者ハ二日ノ日傭賃ヲ稅  
 トシテ納メシムル法ナリ又「モビリエル」ト稱スル  
 ハ借屋ノ大小ニ從ヒ其借人ヨリ納メシムル稅ナ  
 リ又「ライセンズ」ト稱スルモノハ商賣免許  
 ノ稅ナリ其高ハ本人ノ住居スル家賃ノ高下ト都  
 邑人口ノ多寡トニ從テ之ヲ定ム又國內ノ各所ニ  
 官局ヲ設テ諸證文ノ受授ヲ糾シテ其稅ヲ収メ政

府ノ歲入ト為ルモノ多シ此他ノ稅法ハ大抵英國  
 ニ同シ

前條所記ノ外ニ佛蘭西ニハ關門稅ナルモノアリ  
 何等ノ品物ニテモ外ヨリ來テ各處ノ都邑ニ入ル  
 氏其關門ニテ稅ヲ収ム其高ハ都邑ノ大小人口ノ  
 多寡ニ從テ之ヲ定ム此稅法ハ大ニ商工ノ妨ヲ為  
 シ不便ナルニ似タレ且病院貧院等地方ノ雜費ヲ  
 償フガ為未タ之ヲ廢スルニ能ハス  
 千八百六十一年新ニ出納ノ法ヲ定メ會計事務執  
 政ノ命ヲ以テ稅ヲ三種ニ區別シ常稅非常稅別稅

ノ名ヲ設ケ歲出ニモ亦常費、非常費、別費、ノ三種ヲ  
區別セリ每歲會計ノ時ニ至リ先ツ常稅常費ノ出  
納ヲ記シ之ヲ議政官ニ下タシテ商議セシメ議政  
官ニ異論ナキハ次テ非常ノ出納ヲ議セシメ又  
次テ別稅別費ノ出納ヲ議セシム  
左ノ表ハ千八百六十五年錢貨出納ノ高ヲ示スモ  
ノナリ

歲入

常稅

十七億九千八百八十萬零一千零六十二フランク

非常稅

一億零八百七十五萬フランク

別稅

二十億三千九百四十九萬三千零三十五フランク

共計 三十一億三千八百萬零四萬零九十七フランク

歲出

常費

十七億九千七百二十六萬五千七百九十九フランク

非常費

一億零八百六十五萬フランク

別費

十二億三千九百四十九萬三千零三十五フランク

共計 三十一億三千五百四十九萬零八千八百三十五フランク

輓近ハ兵備ヲ為ス多ク金ヲ費シ毎年所入ヲ以テ所  
出ヲ償フニ足ラス第三世ナポレオン即位以來戰  
争ニ金ヲ費ス一十億零二千六百萬フランク

キンコ征伐ノ費ハ此高ノ外ナリ千八百六十五年  
 ノ冬ニ至ルマテメキシコノ戦争ニモ二億七千萬  
 フランクヲ費セリ金ノ價ハ千八百六十五年  
 國債ノ高モ亦甚々大ナリ千八百六十五年ノ春ニ  
 至テハ惣計一百十九億零二百萬フランシクノ國債  
 アリ即チ英ノ貨幣ニスレハ四億七千六百萬零八  
 萬ポントナリ  
 佛蘭西ニ於テハ騷亂以來大ニ歳入ノ高ヲ増シタ  
 リト虽氏歳出モ亦隨テ増加シ却テ其所出ヲ償フ  
 足ラス千七百六十一年ノ歳入ハ五億八千二百

萬フランシクナリシモノ千八百四年ニハ八億  
 シクト為リ千八百六十五年ニハ又増シテ十七億  
 九千九百萬フランシクト為レリ常税ノミ人生二代  
 ノ間ニ國ノ歳入ハ三陪余ニ増シタリ其富强推テ  
 知ル可キノミ會計ノ詳ナルハ社友小幡氏所著ノ  
 錢穀出納表一冊アリ就テ見ル可シ

西洋事情二編卷之四 大尾

明治三庚午年十月

# 官許

## 禁偽版

慶應義塾 藏版

岡田屋嘉七

賣弘



# 慶應義塾藏版目錄

西洋事情 初篇再版

三冊 上方に偽版三四様有りて  
方今も偽本と賣買せり

同 二篇

四冊

同 外篇

三冊

西洋旅案内

二冊 此れも偽版二三様有りて  
事情次第から偽まり

同 外篇

一冊

條約十一國記

一冊 此れも偽版二様有りて  
偽本の賣買感あり

西洋衣食住

一冊 例の如く賣買あり  
偽本火山

華英通語

一冊

英文熟語集

一冊

雷銃操法

初篇

一冊

同二篇

此書は偽版の噂あり他の例に従ふに實説をいふ

同三篇

一冊

洋兵明鑿

五冊

室扶斯新論

醫書

二冊

窮理圖解

三冊

天變地異

一冊

英議事院誌

二冊

萬國

電報

一冊

英文典

一冊 活字再版

博物新篇補遺

三冊

旗章說畧

一冊

清英交際始末

二冊

英軍艦刑法

一冊

頭書 世界國盡

六冊

洋錢穀出納表

一冊

生産道案内

一冊

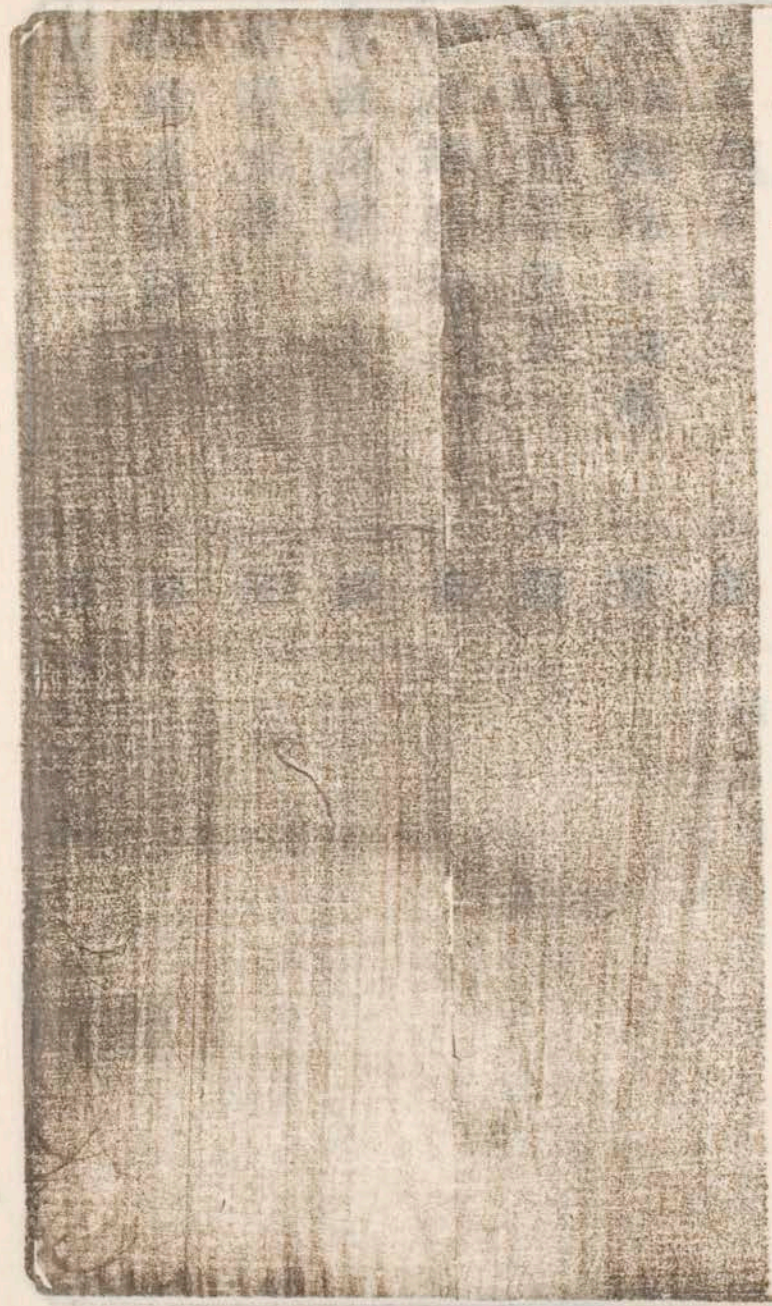
英文典直譯

二冊

西學校軌範

二冊





新砲操練  
地學事始

一冊  
三冊



2-22

著作